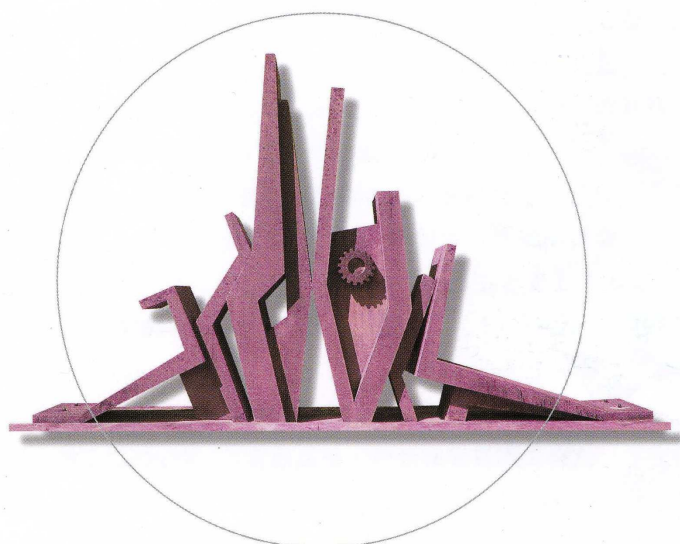


平成28年度

専攻科学生便覧



Amor Omnia Vincit

独立行政法人国立高等専門学校機構

大分工業高等専門学校

National Institute of Technology, Oita College

授 業 時 間

	本 科	専 攻 科
S H R	8 : 4 0 ～ 8 : 5 0	—————
1 限	8 : 5 0 ～ 1 0 : 2 0	
2 限	1 0 : 3 0 ～ 1 2 : 0 0	
休 憩		
3 限	1 2 : 5 0 ～ 1 4 : 2 0	
4 限	1 4 : 3 0 ～ 1 6 : 0 0	
5 限	1 6 : 1 0 ～ 1 7 : 4 0	

学校所在地

学校 大分市大字牧 1 6 6 6 番地

〒870-0152

T E L (097) 552－6359 (教育支援係)

(097) 552－6365 (学生支援係)

F A X (097) 552－6440 (学 生 課)

T E L (097) 552－6075 (総務課総務係)

目 次

1. はじめに	1 -
2. 養成する人材像, 学習・教育（到達）目標及び人材養成目的	1 -
3. 年間行事予定	4 -
4. 開設科目	5 -
5. 修了要件	5 -
6. 履修方法ならびに手続き	5 -
7. 学位（学士）の取得	7 -
8. 「システムデザイン工学」プログラムの修了要件	8 -
9. 学生生活	9 -
10. 大分工業高等専門学校学則	13 -
11. 専攻科における授業科目の履修等に関する規則	15 -
12. 教育課程表	17 -
13. 大分高専組織図	19 -
14. 教員組織（平成28年度）	20 -
15. 専攻科提出書類（抜粋）	21 -

1. はじめに

この便覧を手に行っている皆さんは、既に成人に達しており、社会人として一人前の存在です。すべてのことに自主的に取り組み、主体性を持って行動することが強く求められます。また、このことが、専攻科における皆さん一人一人の学園生活を実り多きものへと繋げてくれることを確信しています。学生の皆さんは、本便覧をよく読み、本校の学習・教育目標に習熟するとともに、専攻科の修了要件、学位授与要件、そして教育プログラムの修了要件すべてを考慮に入れて、遺漏のないように履修計画を立ててください。

2. 養成する人材像，学習・教育（到達）目標及び人材養成目的

(1) 養成する人材像

- ① 高度情報化社会における先端技術に対応しうる課題探求能力を身につけた独創的かつ創造的研究開発能力を有する人材
- ② 自ら方向性を定め学習し問題を発見して解析する力と問題を解決し自ら設計して新しいものを生み出す力を備え、高度な技術力と豊かな教養力に裏打ちされた創造的技術者

(2) 学習・教育（到達）目標

本校は、「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の育成」を教育目的として掲げております。この教育目的を実現するために学習・教育（到達）目標として以下に示す(A)～(E)の5つの主目標とそれぞれを具体化した(A1)～(E3)の11の到達目標を定めた、「システムデザイン工学プログラム」を設定しています。本プログラムを修了するには、これら全ての到達目標を達成する必要があります。

(A)「愛の精神」: 世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養，自ら考える力，いつくしみの心を身につける

(A1) 自ら考える力を身につける

- (1) 自然や人間の活動を地球的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること
- (2) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築することができること
- (3) 事実と自らの考え，他者の考えと自らの考えとを区別できること

(A2) 技術者としての倫理を身につける

- (1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること
- (2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること

(B)「科学や工学の基礎」: 科学の粋を極める技術者に必要な数学，自然科学，情報技術，専門工学の基礎を身につける

(B1) 数学，自然科学の力を身につける

- (1) 数学の基本的な問題が解けること
- (2) 自然現象の本質を問う問題が解けること

(B2) 情報技術，専門工学の基礎を身につける

- (1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること

(C)「コミュニケーション能力」: 地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける

(C1) 表現する力、ディスカッションする力を身につける

(1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき、そのテーマについて議論できること

(C2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける

(1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単なコミュニケーションができること

(D)「技術者としてのセンス」: 創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける

(D1) 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける

(1) 技術の対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること

(2) ものやシステムを創造するために結果をイメージして、その結果を得るための方法やシステムなどをデザインすることができること

(3) 問題を深く掘り下げる努力ができること

(D2) 協力して問題を解決する力を身につける

(1) 問題をチームで解決する体験を得ること

(2) 問題解決を分担化し、自らの分担を見定めて行動できること

(E)「専門工学の活用」: 専門工学の知識を修得して、その相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける

(E1) 専門工学の知識を獲得する

(1) 自らの専門性に即して、一つの分野を深く掘り下げることのできる専門工学の知識があること

(E2) 工学の相互関連性を理解する

(1) 技術が、ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること

(2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること

(E3) 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける

(1) 自らの専門分野において、問題の所在と性質を見極め、その対処法あるいは解決法をデザインし、これを実行することができること

これらの各学習・教育目標の達成度の評価方法ならびに各学習・教育目標を達成するために必要な科目の流れは、「システムデザイン工学プログラム 履修の手引き (2016 年度版)」を参照してください。

なお、これらの学習・教育目標は日本技術者教育認定機構 (JABEE) の認定基準 1 (2) (a) ~ (i) 及び基準 2.1 (1) と基準 1 (2) (d) に関連する分野別要件 (工学 (融合複合・新領域) 関連分野) を含んでいます。

(3) 専攻ごとの人材養成目的

【機械・環境システム工学専攻】

機械・環境システム工学専攻では、準学士課程で修得した基礎学力を基盤に、地球環境に関わる各種環境問題にも対応可能な学際的・融合的教育を行っている。

すなわち、機械システムと環境システムとの相互依存関係や高度な機械生産システムに深く関わる教育を展開することにより、専門性に富み、相互に関連した高度技術社会における自己表現能力を育み、グローバルな視野に立った、発想力、構想力、実現化能力を有した研究・開発型創造的技術者の養成を目的とする。

【電気電子情報工学専攻】

電気電子情報工学専攻では、準学士課程で修得した基礎学力を基盤に、電気工学，電子工学，情報工学に関する様々な分野について、より高度で専門的な技術教育を行うことによって、高度情報社会に対応できる新技術の独創的かつ実践的な研究開発能力や解析能力及び問題解決能力を備え、深い教養と広い視野を有する国際性豊かな創造的技術者の養成を目的とする。

3. 年間行事予定

(1) 学年・学期

2 学年とし、前期を 4 月 1 日から 9 月 30 日まで、後期を 10 月 1 日から 3 月 31 日までとします。

(2) 休業日

休業日は、次のとおりです。ただし、特別の必要があるときは、校長は、これらの休業日を授業日に振り替えることができます。(年度により休業日が変わることがありますので、行事予定表で確認してください。)

(a) 国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日

(b) 日曜日及び土曜日

(c) 開校記念日代休 4 月 25 日

(d) 春季休業 4 月 1 日から 4 月 3 日まで

(e) 夏季休業 8 月 12 日から 9 月 25 日まで

(f) 冬季休業 12 月 25 日から翌年 1 月 6 日まで

(g) 学年末休業 3 月 20 日から 3 月 31 日まで

(h) 専攻科の主な行事

期 日	行 事	
	1 年 次 生	2 年 次 生
4 月 5 日	入学式 入学者オリエンテーション	
4 月 6 日	教育プログラム教務説明会 身体測定, 健康診断	教育プログラム教務説明会 身体測定, 健康診断
4 月中旬	前期受講科目履修届提出 「各種プログラム修了要件 チェック表」, 「教育プログラ ム修了および専攻科修了 予定確認票」作成・確認	(特例申請) 学修総まとめ科目履修計画書提出 (学内) 前期受講科目履修届提出 「各種プログラム修了要件チェック 表」, 「教育プログラム修了および専攻 科修了予定確認票」作成・確認
5 月中旬	球技大会	球技大会
6 月上旬		特別研究Ⅱ 中間発表会
5 月～9 月	特別研究Ⅰ 文献調査発表会	
7 月第 1 土曜日	オープンキャンパス	オープンキャンパス
7 月中旬	実務実習説明会	
8 月上旬	前期試験	前期試験
8 月下旬～9 月	実務実習	
9 月下旬	実務実習報告会	
10 月上旬		ディベート試験
10 月上旬		(従来申請) 学位授与申請(学位授与機構) 単位確認
10 月中旬	後期受講科目履修届提出 体育祭	(特例申請) 学位授与申請(学位授与機構) (特例申請) 学修総まとめ科目履修計画書提出(学位授与機構) 後期受講科目履修届提出 体育祭
10 月下旬	高専祭	高専祭
11 月		(従来申請) 校内小論文試験
12 月上旬		(従来申請) 小論文試験(学位授与機構)
12 月中旬		特別研究Ⅱ 論文提出

期 日	行 事	
	1 年 次 生	2 年 次 生
1 月上旬		特別研究Ⅱ審査発表会
1 月中旬	教科書調査	
1 月下旬	特別研究Ⅰ研究発表会	(特例申請)校内小論文試験
2 月上旬		B1・B2 総合的試験
		後期試験
2 月中旬	後期試験	単位確認 「各種プログラム修了要件チェック表」,「教育プログラム修了および専攻科修了予定確認票」作成・確認
2 月中旬		(特例申請)学修総まとめ科目の成果要旨作成・発送(学位授与機構)
3 月上旬	単位確認 「各種プログラム修了要件チェック表」,「教育プログラム修了および専攻科修了予定確認票」作成・確認	
3 月中旬		修了式

4. 開設科目

教育課程は2学年で構成されており、各学年は前期と後期の授業で編成されています。授業は大きく一般科目、共通専門科目及び専門科目からなり、講義、演習、実験、実務実習、特別研究より構成されています。詳しくは、各専攻の教育課程表で確認してください。

5. 修了要件

専攻科の修了には、次の要件を全て満たさなければなりません。

- 一 学則第53条に規定する要件のほか、全ての必修科目を修得したと認められること。
- 二 大分工業高等専門学校システムデザイン工学プログラム履修規則第13条第1項のうち第一号から第四号の修了要件を満たしていること。

6. 履修方法ならびに手続き

(1) 必修科目と選択科目

開設された授業科目のうち必修科目については全科目を、選択科目については所定科目をそれぞれ受講して、成績の評価を受けなければなりません。

(2) 開講科目

授業は講義、演習、実験及び実習のいずれか、またはこれらの併用により行います。

(3) 科目の単位と時間数

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学習とする内容をもって構成することを基準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、次の各号の基準により計算します。

- 1) 講義については、15単位時間の授業をもって1単位とする。

- 2) 演習については、30 単位時間の授業をもって 1 単位とする。
- 3) 実験については、45 単位時間の授業をもって 1 単位とする。
- 4) 授業科目 1 単位につき、講義については 11 単位時間以上、演習については 22 単位時間以上、実験については 33 単位時間以上受講した科目は、これを履修したものと認める。

(4) 授業時間

専攻科の授業は、標準 90 分（2 単位時間）です。

(5) 受講手続き

授業科目の履修に当たっては、年度当初に、別に定める「受講科目履修届」を所定の期日までに提出しなければなりません。

なお、専攻科には履修辞退の制度はありませんので、履修届提出後の履修辞退は、原則できません。

(6) 実務実習の履修要項

企業等で 2 週間以上の実務実習を行います。なお、指導は各専攻の専攻副主任が行い、単位認定は実務実習の報告書及び企業等の担当者の報告書に基づき専攻副主任が行います。

(7) 試験

試験は定期試験、再試験及び追試験があります。

定期試験は、前期末及び学年末に実施します。

再試験は、成績評価が 60 点未満の者で、当該科目を履修したと認められた者に行われます。再試験に合格した場合の評価は、60 点とします。なお、選択科目の再試験の実施についてはシラバスを確認して下さい。

追試験は、次の各号の一に該当する理由により、定期試験を受験することができなかった者で、別に定める「追試験願」を所定の期日までに当該担当科目教員を経て教育支援係に提出し、許可を得た者に対し実施します。

- 1) 疾病（診断書又はこれに代わるものの提出を必要とする）
- 2) 忌引
- 3) 学校が命じた場合（懲罰による場合は含まれない）
- 4) その他やむを得ない理由と認められた場合

(8) 成績評価

成績は授業科目ごとに定期試験、追試験の成績及び平素の学習状況等を総合して評価します。なお、成績の評価は、100 点法によって行い、次の評語で区分します。ただし、100 点法による評価が困難な科目については、合格 (G) 又は不合格とします。

評価	100～90 点	89～80 点	79～70 点	69～60 点	60 点未満
評語	AA	A	B	C	D

(9) 単位認定

成績評価に基づき、AA、A、B、C、または合格 (G) に評価された授業科目について

は、当該授業科目を修得したものとして単位を認定します。

(10) 他の大学等で修得した単位の認定

大学及び他の高等専門学校の特攻科等（以下「大学等」という）で開設されている授業科目の履修を希望する者は、あらかじめ大学等の許可及び本校校長の許可を得た上で、受講科目を届出しなければなりません。これにより修得した単位は、16 単位を超えない範囲で専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定します。また、他の専攻の専門選択科目を履修し修得した単位は、8 単位を超えない範囲で専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができます。

(11) 再履修

単位を認定されなかった授業科目は、原則として次年度において再履修することができます。なお、再履修する場合は、年度当初に、別に定める「受講科目履修届」を所定の期日までに提出しなければなりません。

7. 学位（学士）の取得

学位は、「大学改革支援・学位授与機構(旧大学評価・学位授与機構)」(以下、「学位授与機構」という。)という機関から与えられます。本校は、平成 26 年度に学位授与機構から「特例適用専攻科」の認定を受け、平成 27 年度修了生から次の条件を満たし必要な手続きを行った学生は、学位授与機構が実施する小論文試験を受験(従来方式の学位授与申請)しないで学位が授与されることとなりました。

なお、留年・休学等のため、同学年の学生と違うカリキュラムを履修した学生については、従来方式の学位授与申請となる可能性があります。

- ① 学位授与機構が定める基礎資格を有する者
- ② 大学評価・学位授与機構が認定する高専本科及び専攻科において、次の単位を修得していること。
 - (a) 専攻科で2年以上にわたり在籍・修学のうえ、62 単位以上を修得していること。
 - (b) 専攻科で専門科目を 31 単位以上修得していること。(この場合、「学修総まとめ科目」を含めることができる。)
 - (c) 専攻科で専門科目及び関連科目を合算して40 単位以上を修得していること。(この場合、「学修総まとめ科目」は含めない。)
 - (d) 本科及び専攻科で専攻に係る単位(専門科目と関連科目を合算した単位数)が専攻の区分ごとの修得単位の審査の基準を満たし、合計 62 単位以上修得していること。
 - (e) 本科及び専攻科で専門科目の単位以外の単位(関連科目と専攻に係る単位以外の単位)を合計 24 単位以上修得していること。
 - (f) 外国語の単位を修得していること。
- ③ 専攻科の最終年次に置かれた授業科目のうち、本校が定めた「学修総まとめ科目」を修得していること。
- ④ 「学修総まとめ科目履修計画書」(10 月上旬申請、A4 判用紙 2 枚に 2,400～3,000 字程

度) 及び「成果の要旨」(2 月中旬申請, 専攻科修了確定時に提出, 学修・探求の成果の論文として A4 判用紙 2 枚に 2,400~3,000 字程度) を提出すること。

※ 「学修総まとめ科目」とは, 学士課程教育に相当する 4 年間の学修を総括するための科目です。本校では, 「特別研究Ⅱ」となります。

なお, 学位授与要件の詳細や, 申請に必要な事項については, 各専攻主任に問い合わせてください。

8. 「システムデザイン工学」プログラムの修了要件

本教育プログラムを修了するためには, 次の(1)~(5)の要件を全て満たさなければなりません。

(1) プログラムの各学習・教育目標に対する評価基準を全て満たすこと。

学習・教育目標の達成度は「各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価基準」に定められた基準に基づいて評価されます。

(2) プログラムの認める単位を 124 単位以上修得していること。

(3) プログラムの認める数学, 自然科学及び科学技術に関する単位を 75 単位以上(修了要件 124 単位の 60%以上) 修得していること。

(4) 情報技術・基礎工学科目群の①~⑤の各科目群からそれぞれ 1 科目以上, 合計 6 科目以上修得すること。

(5) 学士取得のための審査に合格していること。

詳細は「システムデザイン工学プログラム 履修の手引き(2016 年度版)」を参照してください。

9. 学生生活

(1) 諸願届等一覧

以下に示す各種書類の詳細や電子ファイルは、大分高専専攻科ホームページに掲載しています。ホームページにアクセスして電子ファイルを利用して提出して下さい。

URL <http://www.oita-ct.ac.jp/senkou/gakusei/index.html>

(a) 交付を受けるもの

種 別	担 当	時 期	備 考
学 生 証	学生支援係	入学時	
学生運賃割引証	学生支援係	随 時	3 日前までに申し込むこと
在 学 証 明 書	学生支援係	随 時	
成 績 証 明 書	教育支援係	随 時	
修了見込証明書	教育支援係	随 時	
学位授与申請予定証明書	教育支援係	随 時	
修 了 証 明 書	教育支援係	随 時	

(b) 届出(提出)をするもの

番号等	種 別	担 当	時 期	備 考
1-1	特別研究指導教員届	教育支援係	別に定める期日	
1-2	受 講 科 目 履 修 届	教育支援係	別に定める期日	
1-6	実 務 実 習 報 告 書	専 攻 主 任	終了時	
1-7	外 部 発 表 報 告 書	専 攻 主 任	随 時	
1-9	学会賞等受賞報告書	専 攻 主 任	随 時	
1-10	誓約書(就職・進路)	学生支援係	随 時	
1-11	英 語 資 格 取 得 届	専 攻 主 任	随 時	
1-12	学習・教育目標達成度 自己評価チェック表	専 攻 主 任	別に定める期日	
1-17	就職試験受験記録	専 攻 主 任	随 時	
1-18	大学院受験記録	専 攻 主 任	随 時	
A-2	誓 約 書	教育支援係	別に定める期日	
A-3	学 生 身 上 異 動 届	教育支援係	随 時	異動のあった場合はその都度
B-2	住 居 変 更 届	学生支援係	随 時	異動のあった場合はその都度
B-4	自 転 車 通 学 届	学生支援係	随 時	様式第2
B-7	学 生 調 査 票	教育支援係	別に定める期日	
B-9	交 通 事 故 報 告 書	学生支援係	随 時	
C-1	保 証 書	財 務 係	別に定める期日	異動のあった場合はその都度
—	欠 席 届	教育支援係	その都度	
—	連帯保証人変更届	財 務 係	別に定める期日	

(c) 願い出を要するもの

番号等	種 別	担 当	時 期	備 考
1-3	補 充 科 目 履 修 願	教育支援係	別に定める期日	
1-4	教 科 書 調 査 票	教育支援係	別に定める期日	
1-5	実 務 実 習 願	専 攻 主 任	別に定める期日	
1-8	学 生 研 修 発 表 等 助 成 申 請 書	後 援 会 同 窓 会 企 画 係	随 時	
A-1	証 明 書 発 行 願	教育支援係	随 時	
A-4	追 試 験 願	教育支援係	随 時	
A-5	休 学 願	教育支援係	随 時	
A-6	退 学 願	教育支援係	退学しようとするとき	
A-8	復 学 願	教育支援係	休学の理由がなくなったとき	様式第 1
B-1	授業料免除申請書	学生支援係	別に定める期日	
B-3	入 学 料 徴 収 猶 予 申 請 書	学生支援係	別に定める期日	
B-4	車 両 通 学 願	学生支援係	随 時	車両通学しようとする時
B-5	施設・設備使用許可願	学生支援係	その都度	3 日前までに申し込むこと
B-6	合 宿 研 修 所 使 用 許 可 願	学生支援係	随 時	
B-8	アルバイト許可願	学生支援係	随 時	寮生については寮の規則に従うこと
D-1	入 寮 願	学生生活係	その都度	
D-2	退 寮 願	学生生活係	その都度	
D-3	寄宿料免除申請書	学生生活係	別に定める期日	
D-4	長 期 休 暇 中 在 寮 許 可 願	学生生活係	その都度	
—	奨 学 金 申 請 書	学生支援係	別に定める期日	
—	掲 示 物	学生支援係	その都度	

(d) 返納するもの

種 別	担 当	時 期	備 考
学 生 証	学生支援係	有効期間終了時, 退学するとき	

(2) 通学時における車両使用

(a)通学生は、車両通学願により、50cc 以下のバイクによる通学を許可します。

(b)通学生は、校長が認めた者に限り、自動車による通学を許可します。

(3) 飲酒喫煙

校内及び学校周辺での飲酒・喫煙を禁止します。

(4) 授業料・入学料の免除及び猶予

(a) 入学料免除，入学料徴収猶予

入学前1年以内に学資負担者が死亡した場合又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合には，入学料の全額又は半額を免除する制度があります。また，経済的理由等で納付期限までに納付が困難であり，かつ学業優秀と認められる場合は，徴収を猶予する制度があります。

(b) 授業料免除・徴収猶予

経済的理由により授業料の納付が困難であり，かつ学業が優秀と認められる者については，学生の申請に基づき選考のうえ，予算の範囲内で授業料の全額または半額を免除する制度があります。また，経済的理由等で納付期限までに納付が困難であり，かつ学業優秀と認められる場合は，徴収を猶予する制度があります。

(5) 奨学金制度

日本学生支援機構には，学資の支弁が困難と認められ，かつ，学業成績・人物ともに優れ健康である者に，本人の申請に基づき選考のうえ奨学金を貸与する制度があります。予約採用はありませんので，入学後4月の申し込みになります。

第一種奨学金(無利子)の奨学金月額

区 分	貸 与 月 額
自 宅 通 学 者	30,000 円もしくは 45,000 円
自 宅 外 通 学 者	30,000 円もしくは 51,000 円

第二種奨学金（有利子）の奨学金月額

貸与月額	30,000 円、50,000 円、80,000 円、100,000 円、120,000 円から選択
------	--

詳しくは，日本学生支援機構のホームページを参照して下さい。

また，他にも地方公共団体や財団法人等の奨学金があります。学校に案内があれば，その都度掲示でお知らせします。

(6) 学割証の取り扱い

学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証）は，修学上の経済的負担を軽減し，学校教育の振興に寄与することを目的に実施されており，学生個人の休暇・所用による帰省，就職・進学，その他学校行事等への参加等を対象に交付されます。

学割証を必要とするときは，所定の交付願用紙により学生支援係に申し出て下さい。

(7) 保健衛生・学生相談室

(a) 学生の健康管理のため保健室を設け，校医の指導下で看護師により疾病，負傷に対する応急措置を行っています。

(b) 学生の健康管理の重要な資料とするとともに，疾病を有する学生を早期発見し，医療機関での適切な治療と連携し，安定した学生生活を維持するため毎年度当初，定期健康診断を行います。

(c) 学生が当面する諸問題に関する相談に応じることにより、学生生活の充実と人間的成長を助けることを目的として学生相談室を設けています。相談室では、毎週火・水・木の16時～18時の間に専門のカウンセラーが個別の指導・助言を行っています。

(8) 日本スポーツ振興センター

日本スポーツ振興センターは、学校安全の普及充実に図るとともに学校管理下における学生の負傷、疾病、障害又は死亡に関して必要な給付を行い、学校教育の円滑な実施に資することを目的としています。(掛金は後援会費から納入)

(9) 学生寮

本校には、男子寮、女子寮があり、およそ200人の学生が生活しています。専攻科の学生も、入寮希望申請に基づき、審査のうえ入寮が許可されることとなります。

(10) 後援会

大分工業高等専門学校後援会(以下「後援会」という。)は、大分工業高等専門学校の教育事業を援助し協力するとともに、会員相互の親睦を図ることを目的としています。

専攻科学生の保護者は後援会の会員となり、学生1名につき年額13,000円の会費の納入をお願いしております。

(前期及び後期の2期に分ける場合は、前期にあつては5月末日までに6,500円を、後期にあつては8月末日までに6,500円を納入してください)。

入会金は10,000円とし、入学時に納入します。ただし、本校卒業生は、専攻科入学にあたり入会金は不要です。

(11) 施設利用

(a) 図書館の利用方法

別途配布する「図書館利用案内」を参照してください。

(b) 総合情報センター利用方法

総合情報センターに利用者登録をした後に、利用が可能です。利用規程等については、ホームページを参照してください。

(c) 学内LAN利用方法

学内LAN利用に当たっては、「大分高専情報システムの利用の手引き」を確認してください。

(d) その他の施設の利用方法

その他の施設の利用方法については学生支援係に問い合わせてください。

10. 大分工業高等専門学校学則

大分工業高等専門学校学則（専攻科に関する第8章を抜粋）

第8章 専攻科

（設置）

第45条 本校に、専攻科を置く。

（目的）

第46条 専攻科は、高等専門学校教育の基盤の上に、更に高度な専門知識と技術を教授し、創造性豊かな人材を育成することを目的とする。

（専攻及び入学定員）

第47条 専攻及び入学定員は次のとおりとする。

専 攻	入学定員
機械・環境システム工学専攻	8人
電気電子情報工学専攻	8人

（入学資格）

第48条 専攻科に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- 一 高等専門学校を卒業した者
 - 二 短期大学を卒業した者
 - 三 専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第132条の規定により大学に編入学することができる者
 - 四 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者
 - 五 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者
 - 六 我が国において、外国の短期大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における14年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
 - 七 その他、本校の専攻科が高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
- （入学者の選抜及び入学の許可）

第49条 校長は、専攻科の入学志願者について、別に定めるところにより選抜の上、入学を許可する。

（修業年限及び在学期間）

第50条 専攻科の修業年限は、2年とする。ただし、4年を超えて在学することはできない。

（休学）

第51条 専攻科の学生の休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として、休学期間の延長を認めることができる。

- 2 休学期間は、通算して2年を超えることができない。
- 3 休学期間は、前条に定める修業年限及び在学期間には算入しない。

(教育課程)

第52条 専攻科の授業科目及びその単位数は、別表第3のとおりとする。

2 履修方法については、別に定める。

(修了)

第53条 専攻科に2年以上在学し、専攻科の授業科目の62単位以上を修得した者について、修了を認定する。

2 校長は、修了を認定した者に対し、所定の修了証書を授与する。

3 第1項に規定する単位の修得については、別に定める。

(準用規定)

第54条 専攻科の学生については、第3条から第6条、第12条、第16条、第22条、第24条、第26条から第29条、第33条から第40条、第41条から第44条の規定を準用する。この場合において、第16条第2項及び第28条第2項中「30単位」とあるのは「16単位」と、第28条第1項及び第2項中「外国の高等学校又は大学」とあるのは「外国の大学」と、第44条第2号中「第25条」とあるのは「第51条」とそれぞれ読み替えるものとする。

第55条 本章に定めるもののほか、専攻科に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

1 1. 専攻科における授業科目の履修等に関する規則

専攻科における授業科目の履修等に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、大分工業高等専門学校（以下「本校」という）学則第52条第2項、第53条第3項及び第55条の規定に基づき、本校専攻科（以下「専攻科」という。）の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し必要な事項を定めるものとする。

(授業)

第2条 専攻科の授業は、標準50分とし、これをもって1単位時間とする。

ただし、連続して授業を行う場合は、90分の授業をもって2単位時間とする。

2 授業は講義、演習、実験及び実習のいずれか又はこれらの併用により行うものとする。

(単位の計算方法)

第3条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

一 講義については、15単位時間の授業をもって1単位とする。

二 演習については、30単位時間の授業をもって1単位とする。

三 実験及び実習については、45単位時間の授業をもって1単位とする。

(入学前の学習履歴)

第4条 本校専攻科に入学する前に高等専門学校の第4学年及び第5学年次に相当する2年間の学習が必要であり、その間に総単位数62単位以上を取得しなければならない。

2 前項の単位数を満たすことなく入学を許可されたものは、入学後の科目履修等で補わなければならない。

(履修方法)

第5条 専攻科に関する授業科目の履修にあたっては、年度当初に別に定める「受講科目履修届」を所定の期日までに提出しなければならない。

(試験)

第6条 専攻科の試験は、定期試験、追試験及びその他の試験とする。

2 定期試験は、各学期末に実施する。

3 病気その他やむを得ない理由によって定期試験を受けなかった者には追試験を行うことができる。

(成績評価)

第7条 成績は、授業科目ごとに試験の成績及び平素の学習状況等を総合して評価する。

2 成績の評価は、100点法による評点によって評価し、次の標語により区分する。ただし、100点法による評価が困難な科目については、合格(G)又は不合格とする。

評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	60点未満
評語	AA	A	B	C	D

(単位の認定)

第8条 前条第2項の規定に基づき、AA、A、B、C又は合格(G)に評価された授業科目については、当該授業科目を修得したものとして単位を認定する。

(再履修)

第9条 単位を認定されなかった授業科目は、原則として次年度において再履修することができる。

2 前項により再履修する場合は、第5条の規定を準用する。

(他の専攻の授業科目の修得)

第10条 教育上支障がない場合は、他の専攻の専門選択科目を履修し、単位を修得することができる。

2 前項の規定に基づき修得した単位は、8単位を超えない範囲で専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

(他の大学等で履修した単位の認定)

第11条 大学及び他の高等専門学校等の専攻科等（以下「大学等」という）で開設されている授業科目の履修を希望する者は、あらかじめ大学等の許可及び本校校長の許可を得た上で、受講科目を提出しなければならない。これにより修得した単位は、16単位を超えない範囲で専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

(専攻科の修了要件)

第12条 専攻科の修了には、次の要件を全て満たさなければならない。

- 一 学則第53条に規定する要件のほか、全ての必修科目を修得したと認められること。
- 二 大分工業高等専門学校システムデザイン工学プログラム履修規則第13条第1項のうち第一号から第四号の修了要件を満たしていること。

(専攻科の修了認定)

第13条 専攻科の修了認定は、本校学則及び本規則に基づき専攻科運営委員会において審議の上、校長が行う。

(雑則)

第14条 この規則の定めるもののほか、専攻科の授業科目の履修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

12. 教育課程表

機械・環境システム工学専攻教育課程表

平成28年度入学生から適用

区分	授 業 科 目	単位数	学年別配当（単位数）				必修 選択 の別	備 考
			1 年		2 年			
			前期	後期	前期	後期		
一 般 科 目	哲 学 特 論 I	2			2		必修	
	哲 学 特 論 II	2				2	選択	
	歴 史 学 特 論 I	2	2				必修	
	歴 史 学 特 論 II	2		2			選択	
	英語コミュニケーション演習 I	1	1				必修	
	英語コミュニケーション演習 II	1		1			選択	
	応 用 数 学 特 論 I	2	2				選択	
	応 用 数 学 特 論 II	2		2			選択	
	物 理 学 特 論	2		2			必修	
身 体 運 動 の 科 学	2				2	選択		
一 般 科 目 開 設 単 位 小 計		18	5	7	2	4		
			12		6			
共 通 専 門 科 目	技 術 者 倫 理	2			2		必修	
	宇 宙 地 球 科 学	2			2		必修	
	環 境 化 学	2			2		必修	
	環 境 保 全 工 学	2		2			必修	
	プ ロ ジ ェ ク ト 演 習	1			1		必修	
共 通 専 門 科 目 開 設 単 位 小 計		9		2	7			
			2		7			
専 門 科 目	特 別 研 究 I	6	2	4			必修	
	特 別 研 究 II	8			4	4	必修	
	プ ロ ジ ェ ク ト 実 験 I	2	2				必修	
	プ ロ ジ ェ ク ト 実 験 II	1		1			必修	
	つ な が り 工 学	2				2	必修	
	専 門 応 用 力 演 習	1			1		選択	
	情 報 技 術	2		2			必修	
	実 務 実 習	2	2				選択	
	知 的 財 産 論	2				2	選択	
	非 線 形 解 析 学	2			2		選択	
	生 体 材 料 工 学	2			2		選択	
	廃 棄 物 処 理 工 学	2				2	選択	
	水 環 境 工 学	2		2			選択	
	材 料 強 度 学	2	2				選択	
	塑 性 加 工 学	2		2			選択	
	流 体 力 学	2	2				選択	
	熱 流 体 計 測	2				2	選択	
	熱 物 質 移 動 論	2	2				選択	
	混 相 流 工 学	2		2			選択	
	セ ン サ 工 学	2				2	選択	
	耐 震 構 造 解 析 学	2	2				選択	
	地 域 計 画 学	2			2		選択	
	環 境 地 盤 工 学	2	2				選択	
	交 通 シ ス テ ム 工 学	2		2			選択	
コ ン ク リ ー ト 診 断 学	2				2	選択		
造 形 デ ザ イ ン	2	2				選択		
専 門 科 目 開 設 単 位 小 計		60	18	15	11	16		
			33		27			
全 科 目 開 設 単 位 合 計		87	23	24	20	20		

注 1) 大学等で修得した単位は、16単位を限度として修得単位数に加えることができる。

2) 他の専攻で開設されている選択科目で修得した単位は、8単位を限度として修得単位に加えることができる。

電気電子情報工学専攻教育課程表

平成28年度入学生から適用

区分	授業科目	単位数	学年別配当 (単位数)				必修 選択 の別	備考
			1 年		2 年			
			前期	後期	前期	後期		
一般科目	哲学特論Ⅰ	2			2		必修	
	哲学特論Ⅱ	2				2	選択	
	歴史学特論Ⅰ	2	2				必修	
	歴史学特論Ⅱ	2		2			選択	
	英語コミュニケーション演習Ⅰ	1	1				必修	
	英語コミュニケーション演習Ⅱ	1		1			選択	
	応用数学特論Ⅰ	2	2				選択	
	応用数学特論Ⅱ	2		2			選択	
	物理学特論	2		2			必修	
身体運動の科学	2				2	選択		
一般科目開設単位小計		18	5	7	2	4		
			12		6			
共通専門科目	技術者倫理	2			2		必修	
	宇宙地球科学	2			2		必修	
	環境化学	2			2		必修	
	環境保全工学	2		2			必修	
	プロジェクト演習	1			1		必修	
共通専門科目開設単位小計		9	0	2	7	0		
			2		7			
専門科目	特別研究Ⅰ	6	2	4			必修	
	特別研究Ⅱ	8			4	4	必修	
	プロジェクト実験Ⅰ	2	2				必修	
	プロジェクト実験Ⅱ	1		1			必修	
	プロジェクト実験Ⅲ	1			1		必修	
	つながり工学	2				2	必修	
	実務実習	2	2				選択	
	システム数理工学	2	2				選択	
	システム制御理論	2	2				選択	
	信号処理論	2	2				選択	
	電子物性	2	2				選択	
	プラズマ工学	2	2				選択	
	情報セキュリティ	2	2				選択	
	パターン認識	2	2				選択	
	数理論理学	2		2			選択	
	非線形システム	2		2			選択	
	センサ工学	2				2	選択	
	パワーエレクトロニクス特論	2		2			選択	
	情報ネットワーク	2		2			選択	
	生体情報工学	2			2		選択	
	光画像工学	2			2		選択	
	アルゴリズム特論	2			2		選択	
	情報統計学	2			2		選択	
	知的財産論	2				2	選択	
専門科目開設単位小計		56	20	13	13	10		
			33		23			
全科目開設単位合計		83	25	22	22	14		

注 1) 大学等で修得した単位は、16単位を限度として修得単位数に加えることができる。

2) 他の専攻で開設されている選択科目で修得した単位は、8単位を限度として修得単位に加えることができる。

13. 大分高専組織図

大 分 高 専 組 織 図



14. 教員組織(平成28年度)

校 長

古 川 明 徳

主事等

教 務 主 事 (副校長)

高 橋 徹

学 生 主 事

佐 藤 達 郎

寮 務 主 事

薬師寺 輝 敏

専 攻 科 長

佐 野 博 昭

機械・環境システム工学専攻主任

尾 形 公 一 郎

副主任

名木野 晴 暢

電気電子情報工学専攻主任

本 田 久 平

副主任

岡 茂 八 郎

学科長等

一 般 科 文 系 科 長

穴 井 孝 義

一 般 科 理 系 科 長

牧 野 伸 義

機 械 工 学 科 長

小 西 忠 司

電 気 電 子 工 学 科 長

佐 藤 秀 則

情 報 工 学 科 長

靄 浩 二

都 市 ・ 環 境 工 学 科 長

田 中 孝 典

図 書 館 長

山 田 繁 伸

総 合 情 報 セ ン タ ー 長

木 本 智 幸

地 域 連 携 交 流 セ ン タ ー 長

松 本 佳 久

環 境 科 学 技 術 セ ン タ ー 長

松 本 佳 久

技 術 部 長

松 本 佳 久

国 際 交 流 ・ 留 学 生 担 当

穴 井 孝 義

学 生 相 談 室 長

二 宮 純 子

15. 専攻科提出書類(抜粋)

専攻科提出書類(抜粋)

専攻科における各種提出書類の抜粋です。

学生の皆さんは、各自電子ファイルをダウンロードして、指示に従って提出ください。
提出書類のほとんどは、最新版を専攻科ホームページの「学内申請書類(学内専用)」
に電子ファイルで掲載しています。それらをダウンロードして提出してください。

注意：専攻科生の使用できる書類は、全ての提出書類左上に「専攻科〇〇」と書かれています。必ずこの記載のある書類を使用してください。

(すなわち、書類左上に「専攻科〇〇」の記載のない書類は、本科生用の書類であるため、原則受理されないので注意してください。)

教育支援係、学生支援係は、総合研究棟玄関に入って右の学生課の中にあります。
PDFファイルの閲覧は、Adobe Acrobat Reader をインストールしてください。

在 学 証 明 書

氏 名
生年月日 年 月 日
所 属 専攻
入学日付 年 月 日

上記の者は、本校に在学中であることを証明する。

年 月 日

独立行政法人国立高等専門学校機構
大分工業高等専門学校長
古 川 明 徳

修了見込証明書

氏 名
生年月日 年 月 日
所 属 専攻
入学日付 年 月 日

上記の者は、 年3月 本校専攻科を修了する見込みであることを証明する

年 月 日

独立行政法人国立高等専門学校機構
大分工業高等専門学校長
古 川 明 徳

学位授与申請予定証明書

専攻科 専攻
氏 名
年 月 日 生

上記の者は、 年10月学位授与機構へ学士（工学）の学位授与申請予定者であることを証明する

年 月 日

独立行政法人国立高等専門学校機構
大分工業高等専門学校長
古 川 明 徳

修了証明書

氏 名
生年月日 年 月 日
所 属 専攻
入学日付 年 月 日

上記の者は、 年3月 本校専攻科を修了したことを証明する。

平成 年 月 日

独立行政法人国立高等専門学校機構
大分工業高等専門学校長
古 川 明 徳

特別研究Ⅰ指導教員届

平成 年 月 日

工学専攻

学籍番号

氏 名

特別研究指導教員名	確認印

特別研究テーマ

注：指導教員の決定（研究室配属）については、専攻副主任が希望・人数等を考慮して調整する。したがって、専攻副主任からの配属決定の連絡を受けた後に提出のこと。

提出先：学生課教育支援係

特別研究Ⅱ指導教員届

平成 年 月 日

工学専攻

学籍番号

氏 名

特別研究指導教員名	確認印

特別研究テーマ

注：指導教員の決定（研究室配属）については、専攻主任が希望・人数等を考慮して調整する。したがって、専攻主任からの配属決定の連絡を受けた後に提出のこと。

提出先：学生課教育支援係

受講科目履修届

平成 年 月 日

工学専攻 年

学籍番号

氏 名（自署）

科目別	受講科目名	単位数	備 考
一般科目			
	合 計		
共通専門科目			
	合 計		
専門科目			
	合 計		

注意 1. 履修届を提出した後の履修辞退は原則できない。（専攻科には履修辞退の制度はない。本科とは違うので注意すること。）

注意 2. 二部作成し一部は学生課教育支援係へ提出、1部は各自の控えとする。

注意 3. 平成 22 年度以前の入学で機械・環境システム工学専攻の学生は、備考欄に選択科目が A 群か B 群であるか区分を記入すること。

専攻主任

平成 年 月 日

補充科目履修願

工学専攻 年

学籍番号

氏 名（自署）

科目別	受講科目名	単位数	備 考
一般科目			
	合 計		
専門科目			
	合 計		

注意 1：補充科目では種々の手続きを要するため、申請に際しては、事前に必ず専攻主任に相談すること。

注意 2：2 部作成して 1 部は学生課教育支援係へ提出、1 部は各自の控えとする。

専攻科 1-7

指導教員

平成 年 月 日

外 部 発 表 報 告 書

大分工業高等専門学校専攻科長 殿

専攻・学年

学籍番号

氏 名

下記のとおり外部発表を行ったので、報告いたします。

記

1. 発表日時
平成 年 月 日～ 月 日 (日間)

2. 発表場所

3. 発表学会・研究会等

4. 添付資料 (以下の 2 点を添付すること)
① 上記データがわかる発表プログラムに、発表者の講演にマーカーで印をつけたもの。
② 講演集原稿等
(可能であれば、写真等発表を証明できる発表報告書)

提出先：専攻主任

専攻科 1-8

大分工業高等専門学校学生研修発表等助成申請書

学科長又は 専攻科長	指導教員

学科・専攻名、学 年	工学科・専攻	年
氏 名		印
携帯電話番号等		

私は、下記の研修等に参加いたしましたので、次に掲げる助成を申請いたします。
なお、申請に当たりましては、助成団体及び基金等が定める諸規則等を遵守し、後日成果の報告及び発表等を行うことに異存ありません。

- ☐ 大分高等テクノフォーラム国際研修助成 (大分高等テクノフォーラム会長宛)
☐ 同窓会学生会員支援金 (大分高等同窓会・明愛会会長宛)
☐ 後援会学生会発表旅費 (大分高等後援会会長宛)
- ※ ① 今回申請する助成対象の口欄に✓印を付けてください。
② 同一の研修等に対して複数の助成は、受けられません。
③ 助成金額は、交通費 3 万円を上限とします。
④ 申請内容、証拠書類等を確認の上、申請の可否を決定しますので、申請書の提出で助成が必ず認められるとは限りません。
⑤ 上記以外の他の機関、団体等から補助を受けている場合は、助成対象外となります。
⑥ 助成団体の都合により申請先を変更してもらう可能性があります。
⑦ 申請書は、研修等に参加後速やかに裏面に記載している提出先に提出してください。
⑧ 申請書を提出する際は、研修等に係る証拠書類 (学会開催要領、研修会参加に係る許可文書及び講演会プログラム等) を必ず添付してください。なお、発表の場合は、発表日、発表時刻、場所、発表者名が分かるものとし、申請者の名前に添で印を付けてください。

記

研 修 等 名	
参 加 先 (国・地域・機関名等)	
参 加 目 的	
参 加 期 間	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日 (日間)

＜交通手段及び交通費の詳細＞

交 通 手 段	□J 凡・□バス・□航空機・□船舶・□その他 () ※助成を申請する交通手段の口欄に✓印を付けてください。
交 通 費 の 詳 細 (申 請 金 額)	□航空代 (区間) ⇄ _____ 往復・片道 _____ 円) ※要請求書・領収書添付 □J 凡代 (区間) ⇄ _____ 往復・片道 _____ 円) □バス代 (区間) ⇄ _____ 往復・片道 _____ 円) □その他 (区間) ⇄ _____ 往復・片道 _____ 円) 合計 _____ 円 ※該当する交通費の詳細を口欄に✓印を付けて、区間と金額を記入してください。

＜助成金 (後援会) の振込先＞ ※大分高等テクノフォーラム及び同窓会は、現金のみ

ゆ っ ち ょ 銀 行	記号 _____ 番号 _____
銀 行	_____ 支 店 普通預金口座番号 _____

----- 以下の欄は記入しないでください。 -----

平成 年 月 日
本申請を認め、助成金を拠出して差し支えない。
職・氏名 _____ 印
＜裏面を必ず読んでください。＞

＜支援内容・支援団体の概要・申請書提出先＞

支 援 内 容	支 援 団 体 等	申請書提出先
国内教育研修活動 ※課外活動を除く。	同窓会	学生課教育支援係
国内学会参加	同窓会 後援会(本科 5 年生及び専攻科生が発表する場合に限る。)	学生課教育支援係 後援会(学生課内)
海外派遣事業	同窓会 大分高等テクノフォーラム	総務課企画係 学生課教育支援係
海外学会参加	同窓会 後援会(本科 5 年生及び専攻科生が発表する場合に限る。)	総務課企画係 学生課教育支援係 後援会(学生課内)

この学生発表等助成は、「大分高等テクノフォーラム」、「大分高等同窓会・明愛会」及び「大分高等後援会」により、学生の皆さんが海外や国内の教育研修活動及び学会発表に伴う旅費の経済的支援を行うものです。
それぞれ助成を行っているにたける団体及び助成者の意向や趣旨を理解の上、大分高等学生としての品位を保持し、誠実に研修等を行ってください。
本助成に対し、助成元が定める事項(依頼)は、次のとおりです。

＜大分高等テクノフォーラム＞

大分高等テクノフォーラム国際研修助成申請要領(依頼)

- 目的
大分高等テクノフォーラムは、大分高等と会員企業・団体等と連携して、地域産業界との技術交流等を深めることにより、地域の産業と文化ならびに大分高等の教育・研究の発展に寄与することを目的としている。
その大分高等の学習・教育目標には、「地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションのできる力を身につける」と、ある。
そこで、国際研修を強く希望する大分高等学生に対し、大分高等テクノフォーラムとしてサポートすべく、本事業を行うものである。
- 内容
・ 国際研修とは、国際学会における発表、海外インターンシップおよび英語キャンプ等の、海外で実施される教育・研究活動であり、本事業はそれらに参加することを希望する者を対象とする。
・ 所定の申請用紙を提出し、審査を通過した者に最高 30,000 円を支援する。
・ 国際研修に、B プログラムは含まない。
- 申請条件
次に掲げる条件のいずれにも該当する者。
・ 大分高等の学習・教育目標を理解し、達成しようとする強い意欲のある者。
・ 自身のキャリアデザインを描く中で、国際研修を行うことを明確に必要とする者。
・ 大分工業高等専門学校学生としての品位を保持し、誠実に研修等を行うとともに、その成果について求めがあれば、報告および発表を行うことができる者。
・ 教員からの推薦がある者。

＜大分高等同窓会・明愛会＞

大分工業高等専門学校同窓会学生会員支援金の取扱いに関する申合せ(依頼)

- (建旨)
第 1 この申合せは、大分高等同窓会・明愛会 (以下「同窓会」という。)が同窓会学生会員 (以下「学生」という。)に対して行う学生会員支援金 (以下「支援金」という。)の取扱いについて、必要となる事項を定めるものとする。
(支援学生及び支援金額)
第 2 支援金は、学生が学習活動又は社会活動を行うにあたり、経済的に支援を必要とする組織及び個人 (以下「支援学生」という。)に対して、経費の一部又は全額を支援するものである。
同窓会学生会員支援金に係る取扱い方針(依頼)
1. 対象学生 本科、専攻科全学生対象
2. 支援範囲 [海外] 海外派遣事業、国際学会参加、研究活動 等
[国内] 課外活動による参加を除く教育研修活動 (学会参加を含む。)
3. 支援金額 ① 学生 1 人に付き 30,000 円以内
※ 但し、当該年度内で学生 1 人に付き 1 回とし、申請のあった事業に対して他の機関、団体等から補助を受けている場合は、支援は行わない。(他の申請事業において、後援会、大分高等テクノフォーラムから支援してもらったことは、可能。)
② 国内教育研修活動においては、30,000 円を上限とし、交通費のみ支援する。(後援会の支援と同様)

＜大分高等後援会＞

学生会員発表旅費補助についての規程

- 補助を行うのは学会発表を行う 5 年生及び専攻科生に限る。
- 補助の金額は 3 万円を限度とする。
- 補助は 5 年生で 1 回、専攻科 2 年間で 1 回とする。
- 補助の内容は交通費のみとする。
- チェックは出来るだけ経費のかからない方法で購入すること。
・ 特別な理由がない限りは復動切の 2 枚切符
・ 2 名以上で行く場合は 4 枚切符など
上記が使えない場合は学生割引を使うこと。
- 現金の受け渡しによる事故などを防ぐため補助金を口座への振込としたいと思います。経費節減のため振込先はできるだけ手数料の安価なゆうちょ銀行をお願いします。
なお、他の銀行への振込の場合は、振込手数料を差し引いた金額の振込となります。

専攻科 1-9

指導教員

平成 年 月 日

学 会 賞 等 受 賞 報 告 書

大分工業高等専門学校専攻科長 殿

所属・職名

氏 名

印

下記のとおり学会賞等を受賞したので、報告いたします。

記

1. 受賞者
専 攻・学 年: _____ 工学専攻・ 年 _____

氏 名: _____

2. 学会賞の名称

3. 受賞の対象となった業績

4. 添付資料
発表プログラム、原稿および受賞に関する資料等

提出先：専攻主任

私は、学校の行う斡旋によって、就職または進学をする場合は、大分工業高等専門学校に定められた内規を厳守し、違反しないことを誓います。

平成 年 月 日

大分工業高等専門学校長 殿

住 所 〒

学籍番号
本人氏名(自署)

住 所 〒

保証人氏名(自署)
本人との続柄 ()

英 語 資 格 取 得 届

大分工業高等専門学校専攻科長 殿

専攻・学年

学籍番号

氏 名

下記のとおり英語資格を取得しましたので報告します。

記

1. 試験日時： 平成 年 月 日

2. 英語資格種類・得点

3. 添付資料
英語資格のわかる証明書のコピー

提出先：専攻主任

専攻科 学習・教育目標達成度自己評価チェック表

学習・教育目標の達成すべき具体的目標（履修の手引き参照）について、あなたの現時点での達成度を自己評価して下さい。シラバス（ポートフォリオ）の「授業科目系統図」も参考にして下さい。

クラス	番号	氏名	記入日	年	月	日	
学習・教育目標（標語）	サブ目標&達成すべき具体的目標			達成度 5段階	根	拠	備考
A 愛の精神 世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いっしょに心をつなげるの心を身につける	(A1) 自ら考える力を身につける (1) 自然や人間の活動を地球の視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有する (2) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築することができる (3) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できる						
	(A2) 技術者としての倫理を身につける (1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解している (2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解している						
B 科学や工学の基礎 科学の勢を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける	(B1) 数学、自然科学の力を身につける (1) 数学の基本的な問題が解ける (2) 自然現象の本質を問う問題が解ける						
	(B2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける 専門性に即して問題を解り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識がある						
C コミュニケーション能力 地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションのできる力を身につける	(C1) 表現する力、ディスカッションする力を身につける 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき、そのテーマについて議論できる						
	(C2) 英語力を用いてコミュニケーションのできる力を身につける 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単なコミュニケーションができる						
D 技術者としてのセンス 創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける	(D1) 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける (1) 技術的対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができる (2) ものやシステムを創造するために結果をイメージして、その結果を得るための方法やシステムなどをデザインすることができる (3) 問題を深く解り下げる努力ができる						
	(D2) 協力して問題を解決する力を身につける (1) 問題をチームで解決する体験を得る (2) 問題解決を分担化し、自らの分担を見定めて行動できる						
E 専門工学の活用 専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける	(E1) 専門工学の知識を習得する 自らの専門性に即して、一つの分野を深く解り下げることで得る専門工学の知識がある						
	(E2) 工学の相互関連性を理解する (1) 技術が、ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解している (2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有している						
	(E3) 専門分野における研究開発の体験をおこなって問題を発見し、解決する力を身につける 自らの専門分野において、問題の所在と性質を見極め、その解決法あるいは解決法をデザインし、これを実行することができる						

今後の取組みを具体的に記入してください。

(コメント・面談記録等)

印

(担任（指導教員）は検印後に保管用のコピーを教育プログラム資料室へ提出してください。)

専攻科学生用

京大就職試験受験申込記録
提出先：専攻主任

志願者氏名			同一志願者(本校)					
会 社 名								
出 発 日 時								
受 験 期 日	一 次	期 日	月	日	二 次	期 日	月	日
受 験 地	場 所			場 所				
面 接 内 容	時 間	分	面 談 者					
筆 記	一般科目							
	専門科目							
	そ の 他							
そ の 他	身体検査							
	適性検査							
交 通 費	支給有無	有 ・ 無	無の場合に自己負担額					円
宿 泊	種 別	ホテル・会社寮	同 上					円
感 想 (参考事項を含む)								

専攻科 1-17

京大就職試験受験記録 B

面接・試験等詳細な情報を記述、前ページの追加内容でもよい。
(今後の為に出来るだけ詳しく書く。) No.

専攻科 1-18

専攻科学生用

大学院受験記録 A

提出先：専攻主任

受験者氏名	学科	AMC	AES	氏名					
大学名									
出発月日					帰着月日				
受験期日	一次	期日	月		日	二次	期日	月	日
受験地	一次	場所				二次	場所		
面接内容	時間	分	面接官						
筆記	一般科目								
	専門科目								
	その他								
その他	身体検査								
	適性検査								
交通費									
宿泊									
感想 (参考事項を含む)									

専攻科 1-18

大学院受験記録 B

試験・面接等詳細な情報を記述、前ページの追加内容でもよい。
(今後の為に出来るだけ詳しく書く。) No.

専攻科 A-1

平成 年 月 日

証明書発行願

下記の通り証明書の発行をお願いします。

1. 証明書の種類と部数（下記以外の証明書の場合は空欄に記入）

卒業証明書（本科）	部
卒業見込証明書（本科）	部
成績証明書（本科）	部
修了見込証明書（専攻科）	部
成績証明書（専攻科）	部
調査書	部
学位授与申請予定証明書	部
健康診断書	部
在学証明書	部

2. 証明書の提出先（複数ある場合はすべて記入）

3. 使用目的

4. 備考（別々の封筒に入れる必要がある場合や、急ぎの場合などの特記事項）

【申請者】

フリガナ 氏名			
生年月日	平成・昭和	年	月 日
在籍学科または専攻名 (専攻科生は卒業学科も記入)	工学科 専攻		
卒業または修了見込年月日	平成	年	月 日
連絡先	〒 TEL: ()		

学生課・教育支援係に提出してください。

注意:学校推薦で就職する場合は、専攻主任を通して別様式の「推薦者決定通知書」で推薦書も含めて申請します。この書類は使用しないでください。必ず、専攻主任に相談のこと！

誓 約 書

このたび貴校に入学を許可されましたので、入学後は学則その他諸規則を守るのはもちろん、学籍を離れた後も在学中に生じた一切の義務は、必ず責任をもって履行することを固く誓います。

平成 年 月 日
大分工業高等専門学校長 殿

本 人
現住所

工学専攻
(ふりがな)
氏名 (自署)

年 月 日生

(注) 氏名及び生年月日は、戸籍簿のとおり記載すること。

提出先： 学生課教育支援係

受付サイン

学 生 身 上 異 動 届

平成 年 月 日

大分工業高等専門学校長 殿

工学専攻 年
学籍番号
氏名 (自署)

下記のとおり身上異動がありましたのでお届けします。

記

1. 異動内容
改氏名の場合 新氏名
旧氏名

2. 異動理由

3. 異動期日 平成 年 月 日

4. そ の 他

(注) 1. 改氏名の場合は、戸籍抄本を1通添付すること。
2. 学生課教育支援係に1部提出。

(事務連絡：事務係は受付内容を専攻主任に連絡のこと。)

平成 年 月 日

追 試 験 願

大分工業高等専門学校長 殿

工学専攻 年
学籍番号
氏名 (自署)

下記のとおり、追試験を受験したいのでご許可くださるようお願いいたします。

記

1. 受験できなかった理由

2. 受験願出科目

受験願出科目	単位数	科目担当教員	備 考
		◎	
		◎	
		◎	
		◎	
		◎	
		◎	

(注)：1. 科目担当教員の確認印を必ず押してもらうこと。
2. 疾病による場合は診断書を添付すること。

提出先：教育支援係

休 学 願

平成 年 月 日

大分工業高等専門学校長 殿

工学専攻 年
学籍番号
氏名 (自署)

保護者

本人との続柄
住所
氏名 (自署)

下記により休学したいので、ご許可くださるようお願いします。

記

1. 理 由
2. 期 間 平成 年 月 日から平成 年 月 日まで
3. 休学中の連絡先

(注) 1. 病気の場合は、医師の診断書を添付すること。
2. 病気以外の場合は、詳細な理由書を添付すること。
提出先：学生課 教育支援係

教務主事	事務部長	財務係長	専攻主任
学生主事	専攻科長	図書係長	学生支援係長
学生課長	学生課長補佐	総務係長	教育支援係

退 学 願

平成 年 月 日

大分工業高等専門学校長 殿

工学専攻 年

学籍番号

氏名（自署）

保護者

本人との続柄

住所

氏名（自署）

下記のとおり退学したいので、ご許可くださるようお願いします。

記

1. 理 由

2. 退学（希望）年月日 平成 年 月 日

提出先：学生課教育支援係

教務主事	事務部長	財務係長	専攻主任
学生主事	専攻科長	図書係長	学生支援係長
学生課長	学生課長補佐	総務係長	教育支援係

復 学 願

平成 年 月 日

大分工業高等専門学校長 殿

工学専攻 年

学籍番号

氏名（自署）

保護者

本人との続柄

住所

氏名（自署）

平成 年 月 日から休学中のところ下記のとおり復学したいので、ご許可くださるようお願いします。

記

1. 理 由

2. 復学年月日 平成 年 月 日

（注）病気の場合は、医師の診断書を添付すること。

提出先：学生課教育支援係

教務主事	事務部長	財務係長	専攻主任
学生主事	専攻科長	図書係長	学生支援係長
学生課長	学生課長補佐	総務係長	教育支援係

専攻主任/副主任

提出日 平成 年 月 日
※前期は4月1日、後期は10月1日現在の
状況を記入してください。

授業料免除申請書

大分工業高等専門学校長 殿

学科・専攻名

学年 年 学籍番号

申請者氏名（自署）

保護者（主たる学費負担者）（申請者との続柄 ）

氏名（自署）

住所及び電話番号

〒 In （ ）

平成 年度（前期分 前期・後期分 後期分）の授業料を下記の理由により免除していただきますので、許可くださるようお願い致します。

記

申請理由（具体的に記入すること）

※前期申請時に前期分と後期分を一括申請したときでも、選考はそれぞれ各期ごとに行うため、前期と後期で選考結果が異なる場合があります。
※授業料免除の申請に伴う許可、不許可が決定されるまでの間は、その申請に係る授業料の徴収は猶予されます。

住 居 変 更 届

平成 年 月 日

大分工業高等専門学校長 殿

工学専攻 年

学籍番号

氏名（自署）

下記のとおり住居を変更しましたのでお届けします。

記

1. 変更期日 平成 年 月 日

2. 本人住所

新	郵便番号（ — ）	電話番号（ ）
旧		

3. 保護者住所

新	郵便番号（ — ）	電話番号（ ）
旧		

（注）寮生以外は裏面に新住居を示す略図を記入すること。
通学方法が変わる場合は、所定の手続きを行うこと。

提出先：学生課学生支援係

（事務連絡：事務係は受付内容を専攻主任に連絡のこと。）

専攻科 B-3

専攻主任/副主任

平成 年 月 日

入学科徴収猶予申請書

大分工業高等専門学校長 殿

学科・専攻名	
学年 年	学籍番号
申請者氏名（自署）	
保護者（主たる学資負担者）（申請者との続柄 ）	
氏名（自署）	
住所及び電話番号	
〒	ℓn （ ）

下記事由により、入学科の徴収を平成 年 月 日まで猶予していただきたいので、許可くださるようお願い致します。

記

事由（詳細に記入すること）

※許可又は不許可が決定されるまでの間は、入学科の徴収は猶予されます。

専攻科B-4

学 生 主事印	学 生 主事補印	学 級 担任印	受 付

車 両 通 学 願

平成 年 月 日

大分工業高等専門学校長 殿

クラス 工学科(工学専攻) 年
氏名（自署） 年 月 日生（ 歳）

下記のとおり車両通学をしたいので、ご許可くださるようお願いします。

記

現 住 所			
理 由		開 始 日	平成 年 月 日
通 学 経 路	裏面のとおり	乗車距離 km	乗車時間 分
車 両 種 別	自動車 原動機付自転車 その他（ ）		
車両メーカー名			
車 両 番 号 (ナンバープレート)		排 気 量	cc
車 両 所 有 者			
自賠責保険期限	平成 年 月 日		
任意保険期限	平成 年 月 日	対人賠償金額	
		対物賠償金額	
自動車検査証期限(自動車のみ) 平成 年 月 日		最近済ませた定期点検整備日(自動車のみ) 平成 年 月 日（ か月点検）	
運 転 免 許 証	番 号	第 号	
	有 効 期	平成 年 月 日	
	種 類	普 通	原 付
	取 得 年	平成 年 月 日	平成 年 月 日
許可基準 (抜粋)	・免許取得後3か月以上の者であること。 ・原動機付自転車（第2学年以上）は概ね3 km以上15 km以内の通学距離であること。 ・普通自動車（第5学年以上）は概ね10 km以上30 km以内の通学距離であること。 ・第1学年から第3学年の学生で自動二輪車免許の取得をした者は車両通学は認めない。		
平成 年 月 日 上記のとおり通学に車両を使用することに同意します。 なお、許可された以上は、交通規則を守り、常に安全運転に留意し、交通違反及び交通事故の防止に心がけます。 保護者 住 所 氏名（自署）			

通 学 経 路（乗車区間朱記）

（注意）

- この願は、学級担任または専攻主任を経て学生課学生支援係へ提出すること。
- 4月から車両通学をしようとする者は2月末までに願い出ること。
- 別途、次の書類を指定する日に提示すること。
(ア) 運転免許証
(イ) 自動車検査証（自動車のみ）
(ウ) 自動車損害賠償責任保険の証書、任意保険の証書
(エ) 自己名義以外の車の場合は、使用者の車使用同意書

専攻科B-4

学 生 主事印	学 生 主事補印	学 級 担任印	受 付

自 転 車 通 学 届

平成 年 月 日

大分工業高等専門学校長 殿

工学科 年
氏名（自署）

下記のとおり自転車通学をしますので、お届けします。

記

現 住 所			
開 始 日	平成 年 月 日		
通 学 経 路	別図のとおり	距 離	km
		時 間	時間 分
メーカー・車種			
自 転 車 の 特 徴			
防 犯 登 録 番 号			

注1 この届は、学生課学生支援係に提出すること。

- 専攻科 B-5

大分工業高等専門学校長 殿

学籍番号 _____

氏名 (自署) _____

下記のとおり使用したいので、ご許可くださるようお願いします。

記

使用施設・設備名	
使用者(団体名)	
使用目的	
使用日時	自平成 年 月 日 () 【 時 分～ 時 分 】 至平成 年 月 日 ()
備 考	

きりとり線

当直者 殿 平成 年 月 日

學生課

下記のとおり施設・設備の使用を許可しているので連絡します。

記

使用施設・設備名	
使 用 者（団体名）	
使用目的	
使用日時	自平成 年 月 日（ ）【 時 分～ 時 分】 至平成 年 月 日（ ）
備 考	

提出先：學生支援係

專攻科 B-6

平成 年 月 日

大分工業高等専門学校長 殿

責任代表者

工学専攻 年

学籍番号

氏名 (自署) _____

下記のとおり使用したいので、ご許可くださるようお願いします。

記

1. 使用団体名 _____

2. 使用者 別紙名簿添付 (人)

3. 使用目的

4. 使用日時 平成 年 月 日 時～平成 年 月 日 時

指導教員等

氏 名

[illegible]

(注) 合計欄の使用者人数には指導職員を含む。

提出先：學生支援係

専攻科 B-7



学 生 調 査 票

専攻主任	1 年	2 年

写 真 貼 付

1. 上半身
2. 脱 帽
3. 4.5 cm×3.5 cm

平成 年度

工学専攻入学

ふりがな氏名			生年月日	年	月	日	性別	男 ・ 女
本人住所	〒						TEL	
				(自宅・寮・その他)				携帯
本人住所 (変更の場合)	〒						TEL	
				(自宅・寮・その他)				携帯
出身校			都・道・府・県			課外活動歴等 (部活・ボランティアなど)		
血液型		既往歴		自己性格		趣味特技		
保護者	ふりがな氏名	続柄			電話番号			
	現住所		緊急連絡先 (勤務先等)					
家族欄	続柄	氏名	生年月日	続柄	氏名	生年月日		
自宅略図			下宿・間借等					

大分工業高等専門学校

専攻科 B-8

第 号

主 事	課 長	課長補佐	係 長	主 任	係 員

寮務主事	学級担任

ア ル バ イ ト 許 可 願

平成 年 月 日

大分工業高等専門学校長 殿

工学科 年

氏 名 (自署)

本人現住所 〒

保護者氏名 (自署)

下記要領によりアルバイトをしたいので許可してください。

期 間 自平成 年 月 日 ～ 至平成 年 月 日

就業時間

職 種

理 由

雇用者名 TEL

雇用者住所

帰宅時間

専攻科 B-9

学生主事	学生課長	学生課課長補佐	学生支援係長	学生支援係主任	学生支援係

クラス担任

--

交 通 事 故 報 告 書

平成 年 月 日

工学科
専攻科 年 氏 名

(1) 事故または違反等の概要

内 容 事 故 ・ 違 反 ()	
発生日時	平成 年 月 日 時 分
発生場所	
使用車両	車 種 番 号
現場略図 (詳細に記入すること)	
状況及び処理概要 (相手方の氏名・違反点数・警察の取扱いも記入のこと。)	

詳細は裏面交通事故実態調査票のとおり

(2) 学校側記入

--

さんのアルバイトを許可しましたので通知します。

期 間 自平成 年 月 日 ～ 至平成 年 月 日

就業時間

職 種

理 由

雇用者名 TEL

雇用者住所

帰宅時間

(学級担任用)

学校

割印

さんの下記アルバイトを許可しましたので、ご通知します。

平成 年 月 日 大分工業高等専門学校 ㊦

期 間 自平成 年 月 日 ～ 至平成 年 月 日

就業時間

職 種

理 由

雇用者名 TEL

雇用者住所

帰宅時間

(保護者用)

第 号

ア ル バ イ ト 許 可 証

工学科 年 氏名

上記の者下記条件によりアルバイトを許可する。

1. 期 間 自平成 年 月 日 ～ 至平成 年 月 日

2. 仕 事 の 内 容

3. 仕 事 の 場 所

4. 就 業 時 間

5. 毎日の帰宅時間

6. そ の 他

平成 年 月 日

大分工業高等専門学校長 古 川 明 徳

交通事故実態調査票

学年

学科（ M E S C AMC AES ）

男・女

学生氏名

通学区分（ 自宅、下宿、学生寮 ）

発生場所

校内、 校外（ 通学中 通学外 ）

日時

平成 年 月 日（ ） 時 分
（時間記入例：16時45分）

使用車両等

本人 … 自動車、 自動二輪車、 原動機付自転車
自転車、 歩行

相手方 …

自動車、 自動二輪車、 原動機付自転車
自転車、 歩行、 相手方なし

態 様 別

人身事故、 物損事故

人身事故の場合

本人 （ 負傷なし、 治療1ヶ月未満、 治療1ヶ月以上 ）

同乗者 （ 負傷なし 人、 治療1ヶ月未満 人、
治療1ヶ月以上 人 ）

相手方 （ 負傷なし 人、 治療1ヶ月未満 人、
治療1ヶ月以上 人 ）

原 因 別

本人 … 信号無視、 速度違反、 居眠り運転、 追越し、
割込み、 無免許運転、 飲酒運転、 一時停止違反、
前方不注意、 その他（ ）

相手方 … 信号無視、 速度違反、 居眠り運転、 追越し、
割込み、 無免許運転、 飲酒運転、 一時停止違反、
前方不注意、 その他（ ）

専攻科 C-1

保 証 書

出 納 役

大分工業高等専門学校

事 務 部 長 殿

（入学生氏名）

平成 年度入学.....工学専攻.....にかゝる
貴校の在籍中に生じた授業料及び寄宿料並びにその他貴校に対する一切の
債務の履行につきましては、在籍中はもちろん学籍を離れた後も私共に
おいて連帯保証の責に任じます。

平成 年 月 日

保証人記入欄

連帯保証人（保護者）	連帯保証人
郵便番号	郵便番号
住 所	住 所
（ふりがな） 氏 名 ㊟	（ふりがな） 氏 名 ㊟
生年月日 昭・大 年 月 日	生年月日 昭・大 年 月 日
学生との続柄	学生との続柄
電話番号（自宅）	電話番号（自宅）
その他連絡先	その他連絡先
勤務先又は携帯電話	勤務先又は携帯電話

提出先：総務課財務係

専攻科 D-1

提出先：寮事務室 学生生活係

入 寮 願

平成 年 月 日

大分工業高等専門学校長 殿

工学専攻 年

学 籍 番 号

氏 名（自署）

保護者氏名（自署）

このたび学寮に入寮したいと思いますので、ご許可
くださるよう身上調書を添え保護者連署をお願い申し
上げます。

なお、入寮のうへは学寮諸規則を厳守することを誓約
します。

入 寮 生 身 上 調 書

	工学専攻 年	ふりがな 氏 名		男 女	平成 年 月 日生
現住所	(〒 —)			出身学校	
	電話 () —				
				平成 年 月 卒	
保護者	ふりがな 氏 名		続 柄	備考：入寮に 関して申告す る事項があれ ば記入	
	現住所	(〒 —)			電話 () —
家 族 状 況	氏 名	続 柄	年 令	勤務先・就学状況等	備 考
健 康 状 態	健康 やや不健康 不健康		既 往 症		
運 動 ・ 趣 味					
自 宅 从 事 学 校 通 学 上 の 所 要 時 間	区 分		通学方法・交通機関		所要時間
	自宅～ 駅(停留所)～ 乗換待ち時間 駅(停留所)～	駅(停留所) 駅(停留所) 駅(停留所)			時間 分 時間 分 時間 分
	計				時間 分
その他特記事項					

専攻科 D-3

校 長		事 務 部 長	
寮 務 主 事		学 生 課 長	
寮務主事補		学生課長補佐	
専 攻 主 任		学 生 生 活 係 長	
教 育 支 援 係 長		学 生 支 援 係 長	
		財 務 係 長	

退 寮 願

大分工業高等専門学校長 殿

平成 年 月 日

工 学 専 攻 年
部 屋 番 号
学 籍 番 号
氏 名 (自 署)
保 護 者 氏 名 (自 署)

私はこのたび下記のとおり退寮したいので、ご許可くださるよう保護者連署のうえ
お願い申し上げます。

記

1. 退寮予定年月日 平成 年 月 日
2. 退 寮 理 由 _____
3. 移 転 先 _____
4. 寄 宿 料 月分まで納付済
5. 寮 費 及 び 食 費 月分まで納付済

提出先：寮事務室 学生生活係

専攻科 D-3

寮務主事	専攻主任/副主任

平成 年 月 日

寄宿料免除申請書

大分工業高等専門学校長 殿

学科・専攻名
学年 年 学籍番号
申請者氏名 (自署)
保護者 (主たる学費負担者) (申請者との続柄)
氏 名 (自署)
住所及び電話番号
〒 In ()

下記事由により、平成 年度の寄宿料を平成 年 月から免除していただきたいので、
許可くださるようお願い致します。

記

事由 (詳細に記入すること)

※許可又は不許可が決定されるまでの間は、寄宿料の徴収は猶予されます。

専攻科 D-4

寮務主事	寮務主事補	指導教員	(留学生担当教員)

長期休暇中在寮許可願 (専攻科)

平成 年 月 日

寮務主事 殿

専攻名： 工学専攻

寮 号室

氏名

この度、研究のため下記のとおり在寮致したく、ご許可願います。

記

- 期間 1 平成 年 月 日 (曜日) から
平成 年 月 日 (曜日) まで
- 期間 2 平成 年 月 日 (曜日) から
平成 年 月 日 (曜日) まで
- 期間 3 平成 年 月 日 (曜日) から
平成 年 月 日 (曜日) まで

- 注意：1. 緊急の場合は、指導教員あるいは寮事務室に連絡のこと。
2. 水道光熱費として1日200円が必要。

提出先：学生生活係 (寮事務室)